2019 年度　愛知学泉大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
3301030	視聴覚教育メディア論 Audio-Visual Media in Social Education	木田　歩	専門	1	選択	2年集中前期

科目の概要

博物館活動における視聴覚教育の意義を理解し、博物館に関わる視聴覚メディアの役割や活用方法、これからの課題等を、講義や活用実践、グループワークを通して探究することで、基礎的能力を身に付ける。

学修内容	到達目標
①博物館での具体的な視聴覚教育のあり方について知る。 ②博物館に関わる視聴覚メディアの活用方法を知る。 ③グループで、博物館に関する視聴覚メディアの現状を考察する。	①博物館における視聴覚教育の意義を述べることができる。 ②博物館における視聴覚メディアの役割を説明することができる。 ③博物館に関わる視聴覚メディアの課題について、協力しながら示すことができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	講義だけでなく、施設見学や成果発表を通じて、自主的に博物館における視聴覚メディアの役割を見出し、提示することができる。
	働きかけ力	
	実行力	資格取得の目標を明確にしながら、提示された課題に対し着実に取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	観察事実や記録をもとに情報を分析し、課題を見つけることができる。
	計画力	
	創造力	施設見学において、様々な利用者の立場を理解しながら、視聴覚教育の役割を考えることができる。
チームで働く力	発信力	課題レポートや成果発表にて、整理した内容を的確に表現できる。
	傾聴力	グループワークで、メンバーの意見を確認しながら、聞くことができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	施設見学やグループワークにおいて、自分の都合を優先することなく、適切な行動を取ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：使用しない。
参考文献：必要に応じて、講義内で紹介する。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：博物館情報論
関連する資格：博物館学芸員、社会教育主事

学修上の助言	受講生とのルール
博物館法は、博物館学芸員資格を取得する上で、とても大切なルールです。文化庁 Web サイト内「博物館の振興」のページから、「博物館関係法令」を検索・閲覧し、授業に参加してください。	

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験				
小テスト				
レポート	30	① ② ③	✓ ✓ ✓	・社会教育施設見学を通した課題レポート(10 点)。具体的な観察事例をもとに、視聴覚教育のあり方や視聴覚メディアの役割を適切に把握できていることを評価する。＊見学授業は「博物館概論」と合同で行う。 ・科目全体に関する課題レポート(20 点)。科目全体を総括しながら、受講生自身の見解を簡潔に述べていることを評価する。
成果発表 (口頭・実技)	30	① ② ③	 ✓ ✓	・各受講生による博物館情報メディアの記録に関する成果発表(10 点)。記録内容が明確に示されることを重視する。 ・グループワークによる、博物館に関する視聴覚メディアの現状を考察した成果発表(20 点)。データを分析することに努めていることを評価する。
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	① ② ③	✓ ✓ ✓	・受講態度(欠席、遅刻、学修意欲欠如)が見られる場合は、欠席は 2 点、遅刻・学修意欲欠如は 1 点を減点とする。 (主体性) ・視聴覚教育の意義を理解するために、自主的に授業に参画することができる。 (実行力) ・資格取得という目標を立てた上で、レポートや振り返りシートの作成、成果発表に取り組むことができる。 (課題発見力) ・施設見学や日常生活での記録を通じて、現代の社会教育活動における視聴覚メディアの役割を見出すことができる。 (創造力) ・施設見学を通じて、様々な利用者のあり方を把握しながら、視聴覚教育の意義を考えることができる。 (発信力) ・課題レポートや成果発表にて、事例やデータを用いて、わかりやすく伝えることができる。 (傾聴力) ・グループワークにおいて、内容の確認や質問を交えながら、相手の意見を理解することができる。 (規律性) ・学外での施設見学やグループワークにて、支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進むようにルールを守ることができる。
その他	30	① ② ③	✓ ✓ ✓	・2/3 以上の授業に出席し、レポート提出・成果発表を行った学生のみ評価の対象とする(10 点)。ただし、授業の出席は前提条件のため、出席点は加味しない。 ・配付する「振り返りシート」を作成する(第 4 週、10 点)。レポートの構造を視覚的な視点から見直すことができているかを評価する。 ・配付する「振り返りシート」の作成(第 5 週、10 点)。グループでお互いのレポートを読みあい、質問やコメントをすることを通じて、伝えることと伝わることの違いの理解度を評価する。
総合評価 割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)の基準
最終課題レポートにおいて、博物館等社会教育における視聴覚メディアの役割や効果について説明することができることを、A(優)の目安とする。 さらに、現代的課題を提示することができることをS(秀)の目安とする。	最終課題レポートにおいて、視聴覚メディアのあり方や活用方法を、事例をもとに説明することができる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	シラバス等をもとに、資格科目としての概要を理解する。	質問表を利用し、資格取得の意思を確認する。	取得希望資格と本科目との関係性を理解することができる。	(復習)配付資料をもとに、利用者を限定しない博物館における視聴覚メディアの役割を整理しておく。	60	主体性
2週 /	フォントデザインを事例に、視聴覚メディアと社会について学ぶ。	視覚コミュニケーションに関するドキュメンタリーを視聴する。	読めることと伝わることの違いを理解することができる。	(予習)見学する社会教育施設に関する視聴覚メディアを調べておく。	60	主体性
3週 /	施設見学の準備を通じて、社会教育活動における視聴覚メディアのあり方について学ぶ。 *見学授業は「博物館概論」内で実施。2 カ所・週末開講予定。	予習内容を確認しながら、見学施設の視聴覚教育や視聴覚メディアの特徴を調べる。レポート課題出題。	見学を通じて、博物館における視聴覚教育のあり方を知り、その内容を記述することができる。	(復習)見学内容と課題を照合させながら、レポートを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 規律性
4週 /	視聴覚メディアの役割を理解するために、視聴覚コミュニケーションの基礎を身に付ける①	過去の受講生のレポートを参考に、作成したレポートを修正する。その上で「振り返りシート」を提出する。	視覚的な視点から、伝えるためのレポートを作成することができる。	(復習)レポートの修正点とその理由をまとめておく。	60	実行力 発信力
5週 /	視聴覚メディアの役割を理解するために、視聴覚コミュニケーションの基礎を身に付ける②	3 人 1 組となり、お互いのレポートを読み、コメントしあう。その上で「振り返りシート」を提出する。	伝わることの難しさを理解する。	(予習)日常生活のなかで出会う博物館情報を、2 週間記録し、まとめておく。	120	実行力 発信力 傾聴力
6週 /	博物館に関する視聴覚メディアのあり方を知る。	2 週間記録し、まとめた内容を、各自発表する。	博物館に関する視聴覚メディアの役割を理解することができる。	(予習)他の受講生の発表内容と比較しながら、現状をまとめておく。	60	実行力 課題発見力 発信力
7週 /	グループで、博物館に関する視聴覚メディアの現状について考察する①	グループで前週の発表データを分析し、討議する。	メンバーで協力しながら、パワーポイント等を利用し、討議内容をまとめることができる。	(予習)次週の発表のため、準備をおこなう。	180	傾聴力 規律性
8週 /	グループで、博物館に関する視聴覚メディアの現状について考察する② 科目全体のまとめを行う。	グループ発表 最終レポートの課題解説の上、グループ発表と全講義を振り返る。	博物館に関する視聴覚メディアの現状について、協力しながら発表することができる。	(復習)他のグループの内容も含めて発表を振り返りながら、課題内容を把握し、レポートを作成する。	180	実行力 発信力 傾聴力 規律性

能力名:主体性　働きかけ力　実行力　課題発見力　計画力　創造力　発信力　傾聴力　柔軟性　情況把握力　規律性
ストレスコントロール力